

おたふくかぜワクチンの接種費用を一部助成します

※おたふくかぜ予防接種は、希望者のみが行う任意接種（有料）です。

※接種前に裏面の説明を必ずお読みください。

1 助成の対象となるかた

接種日時点で川口市に住民登録がある1歳～小学校就学前のかた

2 助成金額

3,000円（医療機関で定める接種料金から3,000円を引いた金額を、医療機関の窓口でお支払いください。）

※なお、接種費用は医療機関により異なるため、医療機関へお問い合わせください。

3 助成回数

1回（平成30年4月以降、市の助成を受けておたふくかぜワクチンの接種をされた方は、助成対象外となります）

4 接種の受け方

川口市内のおたふくかぜ予防接種実施委託医療機関（川口市ホームページに掲載）にお電話等でご予約の上、接種を受けてください。（予診票は、委託医療機関にあります。）

川口市ホームページQRコード



5 持ち物

- ・住所を確認できるもの（健康保険証、生活保護受給者証、子ども医療費受給者証等）
- ・母子健康手帳

6 注意事項

- （1）おたふくかぜ予防接種は、希望者のみが行う任意接種（有料）となります。接種の前に、必ず裏面の説明を読み、内容を理解した上で接種を受けてください。
- （2）接種する際は、生ワクチン予防接種との間隔は27日以上、不活化ワクチン予防接種との間隔は6日以上あけて接種を受けてください。※接種間隔の規定は、令和2年10月1日以降に変更になる予定です。接種前に医療機関にご確認ください。

（問い合わせ） 地域保健センター TEL048-256-2022

おたふくかぜワクチン接種をご希望の方へ（必ずお読みください。）

このワクチンは任意予防接種です。法律上の接種義務はありませんので、接種にあたって、予防接種の効果及び副反応、健康被害救済のしくみを理解した上で接種を受けてください。

1 おたふくかぜについて

おたふくかぜは、流行性耳下腺炎またはムンプスとも呼ばれ、ムンプスウイルスによって起こる全身性感染症です。主症状として耳下腺、顎下腺等の唾液腺の膨張と圧痛をもって発症し、合併症としては精巣炎、卵巣炎、髄膜炎および感音性難聴等を引き起こす危険性がある感染症です。飛沫感染や接触感染等で感染するおそれがあり、国内では4～5年周期で流行が見られる傾向にあります。

2 予防接種の効果について

予防接種は、感染症の感染、発症、重症化の予防や、感染の拡大を防止するために行われています。予防接種を受けた人の多くがその疾病に対する免疫を獲得しますが、100%感染を防げるわけではありません。日本小児科学会では、1歳と小学校就学前の1年間の2回接種を推奨しています。

3 おたふくかぜワクチンの副反応について

重大な副反応として、次のような報告があります。(1)ショック・アナフィラキシー様症状（じんましん・呼吸困難など）、(2)無菌性髄膜炎（0.03～0.06%の頻度）(3)血小板減少性紫斑病（100万人に1人程度）
※紛れ込み反応：予防接種を受けたしばらく後に、何らかの症状が出現すれば、予防接種が原因ではないかと疑われることがあります。しかし、たまたま同じ時期に発症した他の感染症などが原因であることが明らかになることもあります。これを「紛れ込み反応」と言います。

4 ワクチン接種による健康被害の救済制度について

万が一重篤な健康被害が生じた場合に、ワクチン接種によるものと認定されたときは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）が実施する医薬品副作用被害救済制度により、健康被害救済の申請ができます。給付申請の必要が生じた場合には、予防接種を受けた医療機関へご相談ください。この制度は、予防接種法に基づく定期の予防接種による健康被害救済制度の補障内容とは異なります。

5 接種前の注意

当日は、朝からお子さまの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認するようにしましょう。予防接種を受ける予定であっても、体調が悪く思ったら、医師に相談の上、接種するかどうか判断するようにしましょう。

予防接種を受けるお子さまの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。

6 接種後の注意

- ・予防接種を受けたあと30分間は、副反応が出るおそれがあるので、医療機関でお子さまの様子を観察するか、医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ・接種後1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ・接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ・当日は、はげしい運動はさけましょう。
- ・接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。